20170409

聖書で十分（ヨハネ21:25）

 今は、インターネットの時代でFacebookやGoogle、Yahoo!その他にもいろいろありますが、情報が氾濫していて情報戦争の時代とも言えるときを、いま私たちは過ごしています。その中で半分以上は間違っている情報が飛び交っているし、また、相手の情報を盗むためにハッキングなどをしたり、そういう時代です。それほど情報というものは勝利のために、勝ち抜くために非常に大切なものだということでしょう。もし間違っている情報を手に入れていると、大変なことになってしまうわけです。私たちの人生というものも、今まで自分なりに様々なことを取り入れていたのでしょうけれども、それが自分の意思なのか、それとは関係なく入り込んだのかは別にして、結局、さまざまな情報が私たちにはインプットされて、それによって動かされて生きてきたものだと思います。しかし、クリスチャンの私たちが吟味して考えなければいけないのは、その情報が役立って必要なのかどうかは別にして、実は神様から離れて、神様の御言葉、神様の啓示、それは真理と言いますが、それとは全く関係なく飛び交っていたものだということを素直に認めなければいけません。つまり、少し残念であり極端な言い方かもしれませんが、生まれてから今に至るまで私たちに入ってきた情報というものは、すべて間違いなのです。クリスチャンというのは、それほどの覚悟のもとで間違っている情報は速やかに削除しなければいけません。削除しないままでいると、ウィルスが入って、コンピューターそのものもぐちゃぐちゃになって正しく機能できなくなります。そのように私たちの脳細胞の中に、記憶や思いの中に入り込んでいる情報というものが間違っているものであれば、削除して更新しなければいけません。そのための手段は正しい情報を入れ込んで、入れ替えることしかありません。それが更新です。上書きとも言うでしょう。

 その正しい情報がどこにあるのかといいますと、それが神様の御言葉ですが、神様が私たちに与えられたこの聖書です。聖書の神の御言葉が正しく皆さんの中にアーメンとなり入って、インプットされることによって、間違っている情報が削除されます。そのときに勝利の人生を歩むようになります。そうなるまでは、間違っている情報を元にして一生懸命がんばっているわけなので保証できません。そういうことをよく考えて、ある意味では楽になっていただきたいと思うし、ある意味では真剣になっていただきたいなと思います。そして、聖書と歴史を通して見ても、勝利ある信仰者の特徴は、皆が御言葉に聞き従う人でした。「主よ、私に語りかけてください。私が聞きます」というのが共通点です。御言葉に聞き従い、それは御言葉に信頼するということでしょう。まことの信仰者の、成功ある信仰者の特徴です。カルバンと言う人は、宗教開拓者の1人でした。その人が語った有名なフレーズがあります。神の言葉が行きなさいと言われると行く。神の言葉が止まりなさいと言われたときには止まる。御言葉を信頼して、聖書は神の言葉として信頼して、聖書の御言葉に聞き従うこと以外は、生まれた時から間違ってインプットされている情報、ウィルスだらけのその情報を削除することができません。そういう意味で、私たちクリスチャンが、自分の性格に従っていろいろ違うでしょうけれども、そうではなくて、聖書に対してどのような姿勢を持つのかということが非常に重要なのです。

 そこで今日の聖書の箇所を見ますと、こういうことが書かれています。イエス様が行われた事は他にもいろいろあるのですが、もしそれらをいちいち全部書き記すなら、世界でも書かれた書物を入れることができない。これは大げさな表現だと私は思いますが、つまり、これ以外にもたくさんのことがあるのですが、これだけをここに書いた、それが聖書です。聖書をぜひ正しく理解して、聖書に対しての姿勢、アプローチを改めていただきたいなと思います。それで皆さんが当たり前だと思っていた情報などが全部削除されるいやしの祝福を期待してお祈りしたいなと思います。今日のこの聖書の箇所の意味は、まず、聖書というのは、 人の救いを目的にして与えられた神様の御言葉だという意味です。他にもいろいろな内容があるけれども、これだけを選んでここに書き記したというのは、この目的のためなのです。目的があるということでしょう。多くの人は、聖書を通して、自分の疑問のすべての答えを求める人がいますけれども、それは違います。科学に対しての答えを、聖書は提示しているわけではありません。もちろん、科学的におかしい話ではありませんけれども。聖書を見るとき、テーマが人間の救いなのです。救いを目的にして、つまり、明確なテーマがあり、明確な目的があって書かれているものが、私たちに与えられているものなのです。もちろん、その救いというものは、「救われました」いう話ではありません。救われた人が地上を生きる間に勝利できるすべての戒めも書いてあるし、そして、最後にどうなるのかという最終的な結論の話も全部紹介されています。その目的、テーマは救いであるということを、聖書を理解するときにまず念頭に置いておかなければいけません。つまり、聖書には、神様の恵みによって救われなければいけない人間の姿、人間のことが紹介されています。それに対しては、これっぽっちも迷わずに、また、曖昧なところなどなく明確に紹介されています。人は、神様の恵みによって、神から与えられる救いに預かるようにならなければいけない罪人なのだということが、聖書を見ると誰が見ても明確なのです。創世記から黙示録まで見てみると、様々なことが書いてありますけれども、そのすべての内容の1つのテーマは、ローマ3:23に書いてあるように、すべての人は、罪を犯したので、神からの栄誉を受けることができないのです。その罪というものは、ヨハネ8:44新言われているように、あなたがたは、あなたがたの父である悪魔から出たものであるという存在になってしまった罪なのです。それに対しては、創世記を見ていても、黙示録を見ていても明白なのです。生まれながら神様なんか知らないし、信じないし、いない、いらないという本性を持って生まれるのです。だから、生まれながら神の御怒りを受けるべき子らとして生まれるのが人間です。その様子が、創世記からマラキまで、マタイの福音書からずっと書いてあります。ですから、肌色も違うし、年代も違うし、学歴もその人の個人的な能力も品性なども皆異なるのですが、一人も例外なくこの世に生まれた限りは、生まれた以上、この世の中を生きるときには、ローマ8:2にあるように、死と罪の原理の中に閉じ込められて、その中を生きるしかないものなのです。大統領になったものでも、落選したものであっても、ミサイルを発射する側でも、発射されて被害を受けている国民であっても関係ありません。皆が死と罪の原理の中を、つまり、もっと分かりやすい言葉で申し上げると、滅びるしかない運命にとらわれて生きるようになりました。それに対しては、聖書は、少しも曖昧なところなく明確に教えています。科学的にどうなのかということが紹介されていなくても、結局、自分なりには頑張って最善を尽くし、幸せになりたいという思いでいろいろな苦労をしているのでしょうけれども、マタイ11:28、すべて疲れて重荷を追うようになるしかありません。人生というものはそういうものなのです。そうでないだろうという願望を持っているだけであって、そうではないというふりをして包装して飾っているだけであって、実は疲れて重荷を負って人生を生きるしかないものなのです。そして、そのまま人生が終わると、人間には一度死ぬことと死後にはさばきを受けることが定まっています。永遠の刑罰のほうに入るようになるしかありません。それが人間なのです。

 誰がなのでしょうか。アダムのときからイエス様が再臨なされて地球の歴史が終わるときまでのすべての人類一人も例外なくそういうものです。それに対しては、聖書は明確なのです。学校では教えてくれません。世界中どこの国に行っても、宇宙のどこに行っても教えてくれません。例えば、ロケットの技術が発達して火星のほうに行って住めるようになるとしましょう。住めないと思いますけれども。そこでも教えてもらえません。この話は聖書の他にはないし、聖書は、これだけは明確なのです。ですから、人が救われるためには、人が本当に幸せになるためには、人にまことの安らぎが与えられるるためには、人が本当の希望を持って人生を歩くためには、他には道がないというのが聖書の教えなのです。創世記を見ても、マタイの福音書を見ても、それは躊躇せずに語られています。他には道がありません。だから、こちらの教会では何回も紹介しましたけれども、カインの例を取り上げますと、人がどんなに自分の誠意を持って頑張って努力しても、それは希望にはならないし、創世記6章のノアの時代にあった経済の豊かさ、それも救いの道にはなりません。それが聖書には明らかに明確に紹介されています。バベル塔のように成功を収め、ものすごく発展を遂げたとしても、それでは人間の救いには何の役にも立ちません。それは道になるものでは無いのだということが明確に聖書には紹介されているし、そして、それに釘を刺すようなものが、イスラエルの歴史なのです。そこで神様が、自ら手を加えて選んで導かれて奇跡を見せて、神の御言葉を与えられて、神殿も建てて、預言者も与えられたにもかかわらず、イスラエルはそれで変わる事はありませんでした。イスラエルのように、神様に具体的に選ばれて、手を加えられたとしてもダメなのです。本当に全く他には道がありません。そして、他には道がないという徹底的な証拠が、新約の時代、キリストとしてこの世にこられたイエス様を自ら十字架につけて殺してしまいます。これが人間なのです。これがイスラエルが行っていたことなのです。神の奇跡を見て、律法をいただいて、神に選ばれていた民族だったイスラエルが行っていたことが、キリストを十字架につけて殺してしまうことでした。他には道がありません。どこに希望を求めているのでしょうか。ありません。聖書には、他は全部真っ暗で希望はどこにもないということに対しては、少しも曖昧なところがなく躊躇せずに語っています。世の中が主張している事とはもちろん正反対の内容です。だから、合わないのです。

それで聖書はこのように私たちに語っています。明確に語っています。救いの道は、人間がまことの希望の人生に変えられるのは、まことのいやしとまことの安らぎが与えられる方法は、キリスト、イエスしかありません。キリストオンリーなのです。イエスオンリーなのです。これが、聖書が書かれている目的です。これに対しては、時代が変わり、また著者がバラバラで違いますけれども、一貫してずっと同じです。それが聖書のテーマです。聖書は、私たちの基準から見た人間らしく生きていきなさい、もう少し真面目にがんばりなさい、そうしてはいけない、そういった話をする書物ではありません。勘違いしないようにしましょう。だから、聖書に正しく聞き従うことができなくなるのです。救いが目的です。一番最初から、女の子孫が生まれて蛇の頭を踏み砕くと、最初からキリストの他には道がない、私が道であり、いのちであり、真理なのです。私を通してでなければ、だれひとり父のもとに来ることはありません。イエス様ご自身が、キリストだとおっしゃいました。イエス様の他には道がありません。イエス様が復活したと、そのイエス様を告白している教会、クリスチャン一人一人がそれを証言します。使徒4:12、世界中に、この御名の他には、イエス・キリストの名前の他には、私たち人間が救われる名として、どのような名も与えられていません。聖書に聞き従うというものは、まずその人の頭の中で一番のテーマは、救いになるはずです。何を食べるか飲むかがテーマではありません。周りから認められるかどうか、どんな格好をすべきなのか、そういう事は二の次のことなのです。人間の救いを目的にして与えられました神様の御言葉なのです。

 そして、聖書を私たちが理解する上で、告白しなければいけない持つべき姿勢が何かというと、聖書はその救いを得るために十分な神の御言葉なのです。それが、今日お読みしました聖書の箇所の内容です。この世界の全部を書き記すなら、おさめることができないというのは、そこで抜粋していくつかのことを記したということでしょう。というのは、目的があると同時に、それで十分だからです。もしそれ以外に1ページぐらいもっと必要であったら1ページ加えたかもしれません。書き記して私たちに残されて与えられたというのは、それで十分だから、そこまでだったのです。これが聖書に対しての私たちの理解であるし姿勢です。一番大切な救いを得るために十分な神の御言葉なのです。十分なので、よそ見などいりません。また、してはいけません。救いを目的にして十分だという姿勢を持たないと、皆さんに間違って入ってしまった情報を削除することが、なかなか難しいのです。この情報もまだまだ利用価値があるだろうと少し残して、そこに聖書の情報も残してという状態では、容量オーバーになってよく動きません。削除すべきものは、速やかに削除しなければいけません。皆さんが認めたくないし、気分があまりよろしくないかもしれませんけれども、生まれた時から、親から教わって、自然に耳を通して入ってきて、学校の教育を通して教わってきて、社会からいろいろなツールを通して教えられたら情報が、基本100%間違っていたということに早く気づかなければいけません。間違っているものになぜすがりついてこんがらがっているのでしょうか。それは後ろで目に見えない霊的な力が動いているので、ただ間違っているねということですぐに削除することができないから、御言葉を聞き続けたりするのです。最後に申し上げますけれども、1番良い方法は、口ずさむことなのです。だから、聖書は私たちにそういうことを勧めているのです。黙想というのは、ただ黙想することではなくて、口ずさむところまでつながっているのです。ユダヤ人のフォーラムの仕方は、喧嘩してるかのように見えます。うるさくて、うるさくて仕方がありません。口ずさむので。一人でも口ずさんでぶつぶつぶつぶつぶつ。そのように洗脳させるためです。それは何故でしょうか。それほど生まれた時からサタンが作り上げた間違っている情報がインプットされているわけです。だから、皆さん、クリスチャンなのに、喜んで勝利できるはずなのに、死の陰の谷を歩いていてもそこで神様の大きな栄光を見て感謝するような存在なのに、一つ一つあるたびに、引っかかって右に左にと振り回されるようなことがずっと続くわけです。葛藤しなくてもいいことがずっと私たちの心を捉えて引っ張っていくようになるのです。御言葉が刻印されていないからです。なぜなら、聖書を十分なものとして、絶対的な信頼を置いてアプローチしていないからなのです。つまり、救いを得るために、皆さんの人生の勝利のために、この世の中を変えることのために、十分な神の言葉なので、他のものは入りません。特に他の議論は必要としません。黙示録22:18には、この御言葉に何かを付け加えたり、あるいは省いたりしては呪われるとあります。それほど十分なのです。サタンの策略はこれで十分なのに、この聖書のほかに何かを付け加えようと、あるいは省こうという策略を用いているのです。だから、聖書が与えられているのに、ユダヤ人はユダヤ教になってしまいました。何故かと言うと、聖書のほかにタルムードとかいろいろな経典を作り上げたのです。聖書では十分ではないので。そうすると、神に選ばれた民族なのにユダヤ教というサタンの手下の宗教に転落してしまいます。初代教会が、この御言葉を回復して一生懸命走っていたのに、どこからか穴が開いてずっと流れてしまっていると、ローマカトリック教会になりました。これは怪物的な宗教なのです。サタンの手下の宗教に転落してしまいました。なぜなのでしょうか。聖書だけではなく、聖書のほかに彼らが信奉している書物があまりにも多いのです。その結果、カトリックの教皇が話すことが聖書の上になってしまったり、マリアがイエスの上になってしまったりするのです。聖書に対しての姿勢によって、教会だったものがサタンの手下のようなものに変わってしまった、これが歴史の証しなのです。よく覚えていてください。

これは時代的な話であって、個人的にも同じなのです。皆さんがクリスチャンであればいろいろな悩み事、葛藤、苦しみなどがあるでしょう。特に、精神的に様々な問題があるかもしれません。それが実は、削除すべき内容がそのまま残っているからなのです。裏返しますと、聖書の御言葉に対して絶対的な信頼を置いて、これだけが正しい情報なので、これを取り入れることによって削除すべきなのに、その作業がうまくいかない。もちろん、そこには神様のいろいろな計画などもありますけれども、表の理由はそういうことなのです。だから、どんな精神的な悩みであっても、間違っている情報を削除してください。お前はダメなのだという話は、絶対に間違っている情報なのです。だから、こうこうなのだ。いじめられたでしょう。親が神こうだったでしょう。体に障害があるでしょう。だから…なのだ。全部間違っている情報です。間違っている情報は、偽りの父と言われるものが、裏で糸を引いて操っているということを忘れてはいけません。ただの情報戦争ではありません。根が深いのです。だから、霊的な戦いと言うのです。サタンがイエス様にまで近づいてきて、聖書を取り上げて、偽りの情報提供するわけです。イエス様は、聖書を取り上げて、正しい情報を持ってそれをつぶしてしまいました。これをいやしと言います。皆さんの脳細胞の心の中に、この作業をして行われることがあれば、お医者さんが絶対ダメと言ったものでも必ず治るのです。肉の病気は治らないことがあっても、精神的な病気は必ず治ります。これさえあれば。他の理論や他の何かは、それが必要なものなのか役に立つものなのかは別にして、救いを得るための、人間の本当の幸せと希望と勝利のためには必要になりません。必要としてはいけないし、必要では無いのです。

もう一つ、他の何かを加減しなくても、聖書そのものをもって、そこに自分の色を塗ってしまう場合があります。それもいらないものです。それも危ないことです。「他の事は全部カットしました。聖書に専念します」と言いながら、自分がもともと持っていた欲や動機などで色を塗ってしまいます。世の中で教わってきた律法や道徳的な価値観で色塗りしようとしているし、また世の中で信奉されている理性や科学の論理などで色塗りしようとしているのです。危ないものです。そうする必要がありません。それが十分だということです。時代が変わるので、その時代の色をもって、また色塗りしようとします。聖書をもって時代にアプローチしなければいけません。すべての時代の答えになるわけですから。それと時代の色をもって聖書の色を変えようとすることは違います。今私たちはお腹が空いて独裁政権で苦しんでいる時代なので、聖書をイエスの救いではなくて、政権から解放されること、それが聖書の目的なのだと色を塗り替えてしまうのです。サタンは、そのようにして、とにかく聖書の御言葉から私たちを引き離そうとしているのです。他の理論もいらない、色塗りなども入りません。聖書は十分なのです。皆さん、これからクリスチャンとして時代が変わっても求められることがあります。「古き考え方だ。何でそんなに保守的になって、聖書が十分だと言っているのか。こんなに情報が氾濫して、時代がグローバル化していて、様々な民族といろいろな文化がある中で、なぜそんな昔のことを頑固に主張しているのか。原始時代だ」と言われても、私たちは聖書に徹底的な絶対的な信頼と従順だけが求められます。2部の礼拝でも申し上げますが、そのような人々を通して、今の時代が全部私たちとは正反対の方向に流れているかのように思われるときに、改革を起こすのです。いつも改革は、聖書を、御言葉を用いて取り上げてなさいました。皆さんが、神の御言葉を信頼するところに導かれているということを感謝しなければいけません。Ⅱテモテ3:15-17、後で読んでみてください。聖書は救いを得るだけではなくて、教育をして勝利者になるために十分だと言っています。黙示録1:3に、この御言葉を聞いて守って行うものは幸いなものだと言われています。十分なのです。Ⅰペテロ1:23、あなたがたが救われたのは、血肉の何かではなくて、いのちの御言葉によって救われたのではないのかと言われているわけです。これが聖書に対しての私たちのスタンスです。同じクリスチャン、同じキリスト教会でもいろいろなスタンスがあります。それに惑わされないようにしてください。時代遅れのものだと無視されて指さされることがあっても、私たちは構わずに聖書に対してこのようなスタンスをもってアプローチしていかなければいけません。どこに正しい情報があるのでしょうか。何を信頼して良いのでしょうか。聖書の他にはありません。

そういうことで、これから皆さん、何があっても心配せずに、また、慌てずに聖書に照らして、まずは自分自身と自分の人生を再整理するようにしましょう。間違っている情報でいっぱいなので、削除すべき内容は速やかに削除しながら、自分の過去に対して、それは救いを得させるために神様が許されたものなのです。救われなければいけないものだということに気づいてもらうためにあったものなのです。今現在は、キリストに照らして、死の陰の谷を歩いていても大丈夫なものなのです。幸いなもので、未来は天国が決まっているし、皆さんを通して収穫なさる未来が待っています。皆さんが行く所々で暗やみの力が砕かれて、神の国が臨まれることが約束されています。そのような存在なのです。皆さんの人生は、そのような人生なのです。特に、今現在抱えている様々な課題、問題などを、聖書に照らして見ようとしてください。そうすると、何一つ問題ではありません。聖書は、クリスチャンにある問題を問題とは言いません。勝手に、間違っている情報に基づいて考えるからなのです。聖書の御言葉に基づいて問題も見るようにしましょう。子供の問題があるでしょうか。経済の問題があるのでしょうか。周りから迫害されているのでしょうか。自分の内側の弱さによって悩んでいるのでしょうか。今朝も読みましたけれども、パウロのように、私はみじめなものなのです。みじめが当たり前でしょう。みじめであってはいけないという間違っている情報によって問題だと思っています。みじめだからそのみじめはキリストに向かうための材料なだけなのです。みじめを克服するために工夫したりする必要はありません。それがみじめという問題に対しての聖書の答えです。キリストにあって、みじめさが今私に現れていても一切問題にならない、死と罪の原理からも解放されているのだから、キリスト、ハレルヤ、万々歳という材料なのです。

そういう意味でこれから皆さん、この聖書の御言葉と本当に親しくなって慕い求める気持ちを持つようにしましょう。聖書を愛するようにしてください。特に、詩篇119編を一度読んでみてください。私がどれほど神の御言葉を愛して止まないのかという表現ばかりです。御言葉は、私の道の足元の灯でありという表現もあります。御言葉を愛して愛して、御言葉と親しくなり慕い求める気持ちを持って、そして、その御言葉は皆さんの頭ではなくて心に蓄えられるようにしましょう。それは蓄えられるためでもあるし、蓄えられたもので戦うことでもありますが、そういう時に何ができるかというと、先ほども申し上げましたように口ずさむことです。聖書全部を暗記したり、することは難しいです。非常に大切なキーポイントになる箇所等を、暗記することが問題ではありません。口ずさむということを、暗記することをポイントにするのではなく、それが自分のことなので、繰り返し繰り返し告白することなのです。できれば、精神的に厳しい方々は、よりそうしなければいけないのですが、普通の人もただじっと黙って考えるのも良いのですが、聖書の大事な箇所などは暗記することによって、また暗記するためでも、内側にある蓄えたものを持ち出すために口を動かして小さく口ずさむことです。口ずさむことと、何もしゃべらずにすることとは違います。聖書は口ずさむことを勧めています。やってみてください。神の言葉として信頼をもって。それがどんどん皆さんに本当に刻まれるようになり、他の間違っている情報をどんどん削除していく力になります。そうすると正しい情報だけでクリアできると、聖霊充満につなぐようになります。できないことは何もありません。ヨハネの福音書の最後に、聖書に対して私たちがどのようなスタンスを持つべきなのかということが教えられています。皆さん、これからぜひ聖書とともに正しい勝利の道を歩むことを祝福したいと思います。

祈り）

恵み深い天の父なる神様。私たちが当たり前に思って正しいと思っていたことが、すべて間違っている情報だったということを聖書に照らして気づき、削除していく勇気を与えてください。聖書を正しく理解して、聖書で十分だという信仰告白によって、聖書に絶対的な信頼を置いて、聖書の御言葉とともに歩む勝利のクリスチャンになるようにひとりひとりを祝福してください。そして、その御言葉が、まず自分の内側で運動になり、それがどんどん広まっていく主人公となるようにひとりひとりを祝福してください。イエス・キリストの御名によってお祈りいたします。アーメン。